

東京都市大世田谷キャンパス新1号館竣工

先進の環境配慮複合施設

設計・監理＝東急設計コンサル 施工＝東急・大成JV



玉べしをみる(上から)安達理事長、酒井常務執行役員、飯塚社長

五島育英会は21日、東京都世田谷区の東京都市大学世田谷キャンパスで、新1号館新築工事の竣工式を開いた。設計・監理は東急設計コンサル

タント、施工は東急建設・大成建設JVが担当した。式典では、五島育英会の安達功理事長、東京都市大の北澤宏一学長、東急設計コンサル

ルタントの酒井誠常務執行役員、東急建設の飯塚恒生社長、大成建設の安川英利専務執行役員が玉べしをききあげ、施設の安全を祈願した。

式典後の直会(なわらい)では、安達理事長が「3年を超える工期を経て、本学の中枢機能となる先進の環境配慮型複合施設が完成した。長年の懸案だった教室の老朽化が解消されるとともに、無事故で素晴らしい施設を完成させていただいたことを感謝している」とあいさつした。

北澤学長は「学生たちのリラックスした雰囲気と学びにとって良い環境をつくっていただいたことに感謝している。学校周辺の住民に向けて、なるべく多くの行事や施設を開放していきたい」と述べた。

酒井常務執行役員は「建物の中心となる2カ所の吹き抜け空間は、内部空間に広がりを持たせ、自然採光や換気のシステムにより、サステイナビリティーを実現している」と設計の特徴を語った。飯塚社長は「太陽光発電や通風施設などを整備し、環境に配慮したコンセプトとキャンパス機能を損なわないよう整備してきた。学生の安全配慮を最優先に、無事故・無災害で完成できた」とあいさつした。

新1号館の規模は、RC造地下1階地上4階建て延べ1万4988平方メートル。建設は2010年11月から11年12月のI期工事と、12年10月から13年12月のII期工事に分けて実施した。自然換気窓による通風システム、外部用ブラインドの設置による空調エネルギー負荷の低減、氷蓄熱利用の空調設備、紫外線ランプによる空気浄化装置の導入など、サステイナブルな環境配慮型建築となっている。

建設地は同区玉堤1-28-1。敷地面積は2万3971平方メートル。

■この記事・写真等は日刊建設通信新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会